

日本老年看護学会における「認知症医療・ケア」に関わる活動について

日本老年看護学会は1995年11月に設立され、19年目にあたる。2014年6月現在、会員数は約1500名である。このうち約3分の2が看護学教育・研究に携わる者であり、その他は病院・施設等の看護職、看護系の大学院生、看護系以外の職種の者等である。

会の目的は「老年看護学の進歩発展を図るとともに看護実践の質向上に寄与すること」であるため、認知症看護にのみ特化してはいない。しかし認知症は高齢者に多い疾患として注目され、学術集会では認知症をテーマとした研究が多く発表されている。

本学会の目的から、認知症医療・ケアに関わる活動は「認知症をもつ人と家族に対応する看護職の教育・育成」に焦点があてられている。本学会が発足に関わった「認知症看護認定看護師」については、その活動を促進する委員会を立ち上げ、連携を図っていく予定である。学術集会において、認知症看護認定看護師が交流集会を開催し活動報告を行っている（資料1）。また、学術集会においては、認知症に関連した教育講演等が企画されている（資料2）。

今年度は生涯学習支援の一環として11月に「日本の認知症ケアの方向性と老年看護学の貢献」というテーマで講演会（非会員も参加可）を開催する予定であり、準備を進めている。

また、認知症ケアに関して学術的観点から政策提言を行えるようエビデンスの蓄積を始めた。2013年度、認知症入院高齢者へのチーム医療の評価に関するシステマティックレビューを行ったほか、認知症の高齢入院患者へのチーム医療の実態について、認知症看護認定看護師および老人看護専門看護師を対象に調査した。現在その分析を行っているところである。

（文責 日本老年看護学会 庶務担当理事 湯浅美千代）

資料1 認知症看護認定看護師による活動報告・自己研鑽・連携の場の提供

認知症看護認定看護師は学術集会において、交流集会を開催し活動報告等を行っている。2013年、2014年の学術集会における開催は以下の通りである。（それ以前については昨年報告済み）

2013年

「認知症看護認定看護師の誕生から現在、そしてこれからの展望」

「認知症の人に対する医療の担う役割—認知症看護認定看護師の立場から—」

「急性期病院での認知症高齢者の入院から在宅生活をどうサポートするか—他分野の認定看護師、他職種との協働・連携を中心に—」

2014年

「認知症看護認定看護師教育課程を修了しての学び—認知症の人の思いが置き去りの臨床現場を変えるために今できること—」

「急性期治療におけるパーソン・センタード・ケア—認知症看護認定看護師が目指すパーソンフッド—」

資料2 学術集会における認知症看護に関連したプログラム

2013年、2014年の学術集会において、以下のプログラムが行われた。(それ以前については昨年報告済み)

2013年

・教育講演

「高齢者ケアに生かすリハビリテーション—作業療法による虚弱・認知症高齢者支援の考え方」

講師：村木敏明

「認知症ケアの倫理」

講師：諏訪さゆり

・ランチョンセミナー

「認知症の人と家族を支える医師、看護師の連携、協働」 講師：藤本直規、奥村典子

・交流集会

「認知症治療病棟から看護師目線で発信するクリニカルパスの開発—続報 多職種での運用の実際—」

「認知症看護認定看護師が臨床現場で介入する認知症ケア効果の可視化と診療報酬化に向けて」

「内科系・外科系治療を受ける認知症高齢者のパーソン・センター度・ケアと認知症ケアマッピングの導入と展開」

2014年

・海外招聘講演

「Mental Health Care for Family Caregivers of Older People with Dementia」

講師：Teresa A. Harvath

・教育講演

「認知症高齢者の持てる力を引き出す看護」

講師：鈴木みずえ

・ランチョンセミナー

「認知症の臨床と研究のトピックス」

講師：遠藤英俊

「アスタキサンチンは海馬の可塑性を高める」

講師：征矢英昭

・ワークショップ

「高齢者うつ病のケアを考える—身体疾患、認知症との関連から」

・交流集会

「今こそつながろう！ 認知症看護認定看護師の輪—認知症看護の更なる拡がりや質の向上を目指して—」